朝倉がキョンを襲うシーンを弄ってみた。

セウル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
朝倉がキョンを襲うシーンを弄ってみた。

【Ｎコード】
Ｎ４５２６Ｓ

【作者名】
セウル

【あらすじ】
朝倉涼子がキョンを呼び出して、涼宮ハルヒの出方を見る為に殺そうとして、
長門に乱入されるあのシーンを弄ってみた。

（前書き）

後悔はしていないはず。
有名な、そして長門の貴重な戦闘シーンを弄ってしまいました。
そういうのが嫌いな方はお下がりください。

「やらないで後悔するより、やって後悔した方が良いって言うよね？」
「な、何言って――――？！」
瞬間、俺の感じた第六感が身を仰け反らせ、斬りつけてきた朝倉のナイフをかわした。
「なんで避けるの？　苦しいのがお好みかしら？」
朝倉がにこっと笑う。
「いやいやいや！！　まず、状況すら把握できてないっつうの！！」
キョンが怒鳴る。

「あっそ。でもまぁ、コレで動けないでしょ？」
朝倉は何にもしていない。
ただこっちに近づいてきているだけ……
なのに――
「体が動かない？！」
「ふふっ。この空間は私の情報制御下にあるの。じゃ、死んで？」
死を覚悟した。
すると……

＜諦めんなよ！　諦めんなよ、お前！　どうしてそこでやめるんだ、そこで！　もう少し頑張ってみろよ！ダメダメダメ！　諦めたら！
　周りのこと思えよ、応援してる人たちのこと思ってみろって！
あともうちょっとのところなんだから＞

どこからとも鳴く声が響いた――――

そして、空間に亀裂が入り、朝倉が吹き飛ばされた。

「なんなのよ？！　まさか、ながｔ――――え？」

朝倉も俺も唖然とした。
いや、だってしないわけにいかないだろ。
だってだぞ？
ヒューマノイドインターフェースとかいう長門と同じだとか言う朝倉。
その朝倉の所―しかも異次元空間みたいな―に来たのが、
長門ではなく、逆十字の柄が入ったアシンメトリーのオーバースカートの付いた凝ったスカートに、黒と白の編み上げドレスに薄紫色のバラの飾りがついた黒のロングブーツを履いて、更にだ！！
極めつけとも言わせたいかのように背中には黒い羽をくっつけたゴスロリ少女が出て来たんだぞ？！

「ったく……なんなのよぉ。ｎのフィールドから出れないから壁を叩き割ったら見たこと無いところじゃない……」
「えっと……誰？」
朝倉が聞く
「はぁ？　お馬鹿さぁん。聞く前に名乗るべきでしょぉ？　乳酸菌足りてないんじゃないのぉ？」
「……朝倉涼子（あさくらりょうこ）よ」
「ローゼンメイデン第一ドール水銀燈（すいぎんとう）よぉ。で？　ここどこなの？」

水銀燈が聞く。
「どこって、学校だけど？」
「……へぇ」
えっ……と？

「その……お前は……」
「お前じゃなくて水銀燈！　ジュンに似ていらつく人ね！」
……怒鳴られた。
「水銀燈はなにしにきたんだ？」
「知らないわぁ。ｎのフィールドから出たらここだったのよ」
ｎのフィールドって？
「まぁ、良いわ。邪魔だから下がって」
朝倉が言う。
「……邪魔？」
あれ？　今なんか寒気が……朝倉か？

「邪魔なのよ貴女。わｔ――」
「へぇ。邪魔？　そう。邪魔なのねぇ？　えぇ。だってジャンクだものね？　あ～いらいらしてきちゃった。涼子。私の憂さ晴らしの為に死になさぁい」
「へ？」
あまりに突然のことにおいてかれた俺。
そんな俺を置いて、戦いは始まった。
「私の制御空間で動けるわけ無いでしょ！」
朝倉がにやっと笑う。
しかし、水銀燈は止まらず、散った羽が剣となって手に収まると、そのまま斬りかかる。
「動かないなんて本当にお馬鹿さぁん」

水銀燈が微笑んで斬りつけるが、ぎりぎりのところで朝倉がかわす。
「な、なんなのよもう！！」
「？」
朝倉が両手を広げると、どこからともなく数千ともいえる数の光の矢が水銀燈を襲う……が。
「メイメイ！！」
水銀燈に呼ばれたのか紫色の光が現れると水銀燈と同化し、黒い羽がドラゴンのように唸って光を打ち落としていく。
「えぇぇぇぇ？！」
朝倉が驚嘆し、うな垂れる。
だってもう、人外とかそういう問題じゃないし。
俺自身、この流れにはついていけず、ただ唖然と見ていることしか出来なかった。

「あら。もうお仕舞いなのぉ？　つまんなぁい」
水銀燈がくすっと笑うと、翼のドラゴンが大口を開け、朝倉を飲み込む。
「ふぅ。つまんなぁい。貴方も戦う？」
水銀燈がキョンに聞くが、全力で横に首を振る。
「そう……あっ。nのフィールドが見えるわぁ！！　じゃぁね～」
そう言うと、水銀燈は空間に飛び込んで消えた。

そしてまた、空間が裂け、
「一つ一つのプログラムがあm――――？」
「長門？」
次に出てきたのは長門だった。

「朝倉涼子は？」
「ドラゴンに食われた」
「意味が解らない。説明を要するが、まずはこの空間を正常に戻す」
長門が言うと、意味の解らない空間はいつもの教室に戻った。

「では、説明を」
長門に真実を話すと、
「嘘みたいな話。しかし、貴方に嘘をついてもメリットがない」
と、繰り返すだけだった。
……水銀燈か。
一体なんだったんだ？

（後書き）

水銀燈強すぎたかな？
っていうか、口調が変？

出来れば読んだ感想をいただけると嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4526s/

朝倉がキョンを襲うシーンを弄ってみた。

2011年10月8日14時26分発行